



農大同窓会報

ごあいさつ



会長 野田留美

同窓会員の皆さま、いかがが
 過ぎでしょうか。この度、前
 任の柴田隆夫会長の意向もあり、
 理事会において会長職を引き継
 ぐことになりました野田留美と
 申します。愛知県農業のけん引
 役であられる多くの諸先輩がい
 るなかで、私のような若輩がと
 戸惑う気持ちもありますが、就
 任したからには誠心誠意、母校
 の発展のために尽くして参りた
 いと思えます。全国の農大同窓
 会では二人目の女性同窓会長と
 いうことで、この機会に愛知県
 農業の魅力を積極的にPRして
 いきたいと思っております。何
 卒同窓会へのご理解ご協力を賜
 りますようお願い申し上げます。

さて、私の家は稲作と施設ト
 マトの農家であることから、平
 成4年に農大の専門部に入學し
 ました。そして施設野菜専攻を
 選択しトマト栽培を学びました。
 有機栽培に興味があり、たい肥
 の種類によってどのような生育
 の違いがみられるのかの比較検
 討をした覚えがあります。まだ
 有機栽培の法制度もない時代で
 したので、この分野はゆつたり
 していたように感じます。

また、当時の農大は女性が今
 よりも少なく、女子寮では一部
 屋に二人〜三人で過ごしていた
 のを思い出します。毎日のお友
 達との生活やおしゃべりがとて
 も楽しく、わずか2年間の寮生
 活でしたが、人生の中で一番楽
 しかった時期なのではと思いま
 す。専門部を卒業した後は、長
 久手の農業総合試験場にある研
 究部に進学しました。すでに研
 究部はありませんが、この4年

間の学びは、私にとつて農業に
 対するものの見方や考え方の土
 台を築いた時間だったと感じて
 います。

その後、農協に就職してから
 就農しましたが、女性が農家を
 継ぐということは本当に大変で、
 悔しい思いもたくさんしました。
 特に我が家は名古屋市内の市街
 化区域なので、典型的な都市農
 業です。女性の後継者が大切に
 されることは一切なく、開発者
 側や関連の行政職員から農業を
 否定する言葉を直に受けたこと
 は何度もありました。そこを何
 とか踏ん張って家族で支え合っ
 て、たくさんの人達からも応援
 していただきました。

そうやって頑張っていた結
 果、縁があり平成23年から一期
 4年、県議会議員を経験しまし
 た。その時に当時の同窓会と後
 援会の会長さん副会長さんが大
 村知事を訪ね、老朽化した学生
 寮の整備に関する要望書を提出
 するにあたり、紹介議員になり
 ました。私も大村知事に農大の
 視察をはたらきかけ、訪問が実

発行所
 愛知県立農業大学校同窓会
 岡崎市美合町字並松1-2
 電話 (0564) 51-1601

編集発行人
 同窓会 会長 野田留美
 印刷所 広済堂ネクスト
 電話 (06) 7178-0530

現したことで一気に新しい学生
 寮の話が進みました。
 あの時尽力していただいた同
 窓会、後援会の皆さん、そして
 当時の愛知県農林水産部の職員
 さん、農大の先生方や学生さん、
 皆の願いが叶ったことを何より
 も嬉しく思っています。

さて、これからの農業につい
 てです。昨年度から異常なほど
 にお米が注目されています。備
 蓄米の放出や、食料供給困難事
 態対策法の施行など緊急事態条
 項の紐づけともいえるような決
 め事が、私達の知らないところ
 で決まっています。農政はダ
 イレクトに農業現場へと影響を



ごあいさつ

同窓会員の皆様

校長 島岡勝隆

この4月から校長を務めるこ
 とになりました島岡と申します。
 同窓会員の皆様方には、益々御
 健勝のこととお慶び申し上げます。
 柴田隆夫前会長におかれまし
 ては、在任中、長年にわたり同
 窓会の発展に御尽力くださいま
 した。その熱意とリーダーシッ
 プにより、同窓会の活動は一層
 活発になり、会員間の絆も深ま
 りました。本当にありがとうございます
 でした。そして、この度、

及ぼします。常にアンテナを高
 くし、新品種の導入や栽培技術
 の進化にも注視する必要があります。
 これだけ社会情勢が激し
 く変化し、酷暑や水不足にさい
 なまれ、正直現場の疲弊感は否
 めません。

それでも何とか頑張っ
 てほしいのです。くじけそうになつた
 時の支え手が農大であり農業仲
 間だと思えます。多くの人達の
 食を守り国土を守る素晴らしい
 職業であることを誇りに、持続
 可能な農業を目指していきま
 しょう。

以上をもちまして、同窓会長
 の挨拶とさせていただきます。

重責を担われることになりまし
 た野田留美新会長には、心より
 敬意を表します。母校に深い愛
 情と情熱をお持ちの新会長のも
 と、同窓会がさらなる発展を遂
 げることを確信しております。
 また同窓会の役員、会員の皆様
 方には、卒業後も母校を支え、
 見守ってくださいることに深く感
 謝申し上げます。学校としまし
 ても、同窓会の活動を全力でサ
 ポートしてまいりますので、同

窓会員の皆様方には、歴代校長と同様、よろしくお願い申し上げます。

卒業生の進路

令和6年度の卒業式を3月7日(金)に執り行い、農学科の学生86名が新たな進路に進みました。卒業生の進路は、86名中28名が就農(自営就農、農業法人等への雇用就農)し、JA等への就職が51名(うち就農前提の1時就職10名)、研修が3名、4年生大学への進学が4名で、進路決定率は100%でした。

本県農業の担い手として、また、農業を支える人材として、卒業生の今後の活躍を大いに期待しています。同窓生の皆様には、卒業生への温かい御指導と御支援をお願いいたします。

近況報告

令和7年度は、新たに92名の1年生を迎え入れ、4月9日(水)に入学式を挙行いたしました。新入生にとっては、緊張の中にも晴れやかで思い出に残る一日になったのではないかと思います。

新入生が加わり、新2年生76人と合わせて、本年度の在校生は168名となりました。

また、5月29日(木)、30日(金)の2日間、「東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会」が、岐阜県で開催されました。

本校から70名の学生が参加し、団体の部では野球、バドミントン、テニスの3種目で優勝、個人の部では卓球女子ダブルス、バトミントン女子シングルと女子ダブルス、テニス男子ダブルスで優勝するなど、多くの種目で優秀な成績を収めることができました。この大会を通じて、本校学生の団結力が高まることにも、他府県の学生との交流促進が図られたことは、とても有意義な経験になったのではないかと思います。

学生募集

全国的に農業大学校の入学者が減少する中で、本校においてもここ数年、定員を下回る入学者数で推移しています。

農業に夢を抱く意欲ある学生を一人でも多く確保するため、本校では、6月から8月にかけてオープンキャンパスを開催するなど、来年度の学生募集に向けた様々な取組を行ってまいります。

令和4年度の学生募集からは、特別推薦入試制度(農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験)を改正し、非農家出身であっても就農(雇用就農も含む)意欲が高く在学中に農業クラブやクラブ活動に精力的に取り組んだ者の推薦(特別推薦II)を加えています。また、インスタグラムやX(旧ツイッター)といったSNS

Sを活用して、学生自らが日頃の実習や学校生活の様子を情報発信するなど、本校の魅力を積極的にPRしております。ぜひ一度ご覧いただき、皆様方のフォローをお願いいたします。

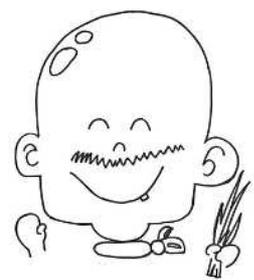
こうした取組が、本校への入学希望者の増加につながることを期待しております。

最後に

農業者の高齢化や担い手不足が顕著となっている現在、愛知の農業を支える優秀な人材の養成を担う本校の使命は、益々重要なものと考えています。この使命を着実に遂行するため、創意工夫や改善を図りながら、教育内容の一層の充実と円滑な学校運営に努めてまいります。

農業は、国の基本産業であり、生命を守り、生命を育てる大切な仕事です。農業に魅力を見つけ、可能性を感じ、農業を通じて自分の人生を切り拓こうと夢を持つ学生の背中を押すことができると、職員一同頑張りますので、同窓会の皆様におかれましても一層の御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、同窓会会員の皆様のも更なる御活躍と御繁栄を心から祈念申し上げます。今後とも、よろしく御願ひ申し上げます。



退任のごあいさつ

前会長 柴田 隆夫

10年という期間に渡って務めてまいりました同窓会会長の職を本年3月をもって退任する事となりました。

同窓会の皆様には、本会の運営に御理解と御協力をいただき誠にありがとうございました。私自身にとっては、大変貴重な経験をさせていただきました。

新寮の完成に始まり、事業の制限を受けたコロナ禍の3年間、学校外部評価委員会や東海近畿ブロック会議、全国同窓会会長会議、90周年記念事業と多くの事がありました。

現卒業生の自営就農率の低下には驚きましたが、今の日本の農業をとりまく環境のキビしさの一断面なのでしょう。

しかし、ICT温室の新設や各種新設備の導入等、予算の厳しい中、着実に整備されて来ました。

新寮は、エアコン完備の完全個室となり、現代っ子の住環境として、申し分無い物となりました。愛知県の実践農業教育施設は、

全国トップレベルと言って良いと思います。

よく愛知県は、一県だけで独立できると言われています。第一次(第三次産業まで強い産業が揃っており、製造業がキビシイと言われる中でもトヨタはむしろ一人勝ちの形で世界を席巻しております。

農業界においても優れた先輩に続き、世界をリードできる人材を次々と生み出して行って欲しいものです。

尚、後任の野田留美会長は、元県議会議員、現名古屋市議会議員を務めている活動的頭脳派として活躍していただけるものと確信しております。

今後とも同窓会活動に御支援を賜ります様お願い致しまして退任のあいさつとさせていただきます。

◆◆令和七年度理事会だより◆◆

令和7年2月7日(金) 午前10時30分から、令和7年度農業大学校理事会が本校中央教育棟会議室において開催されました。

まず、第1号議案から第5号議案の内容について配付した資料により審議していただき、すべての議案について異議なく承認されました。第5号議案の役員選出では、星川優事務局長、鈴木大地会計に加え、鈴木常広会計監事が新たに就任されました。

各議案と主な内容は以下のとおりです。

○第1号議案 令和6年度事業報告

・同窓会報第40号の発行

・役員会・理事会の開催

・卒業生記念品贈呈

・同窓会役員の表彰

・農業大学校同窓会全国連盟総会等への参加

・創立90周年事業の実施

○第2号議案 令和6年度会計決算報告

○第3号議案 令和7年度事業計画

・同窓会報第41号の発行

・役員会・理事会の開催

・卒業生記念品贈呈

・同窓会員の表彰

・東海近畿ブロック同窓会長会議の開催

・農業大学校同窓会全国連盟総会等への参加

・支部活動並びに技術部会活動への支援

○第4号議案 令和7年度会計予算

○第5号議案 理事の委嘱及び役員の見直しについて

次期理事会開催のお知らせ

同窓会規約により、令和8年度は次のとおり開催予定です。度、理事の皆様は出席をお願いいたします。

日時 令和8年2月6日(金)

午前10時30分から

場所 愛知県立農業大学校中央教育棟会議室

東海近畿ブロック同窓会長会議報告

令和7年度の東海近畿ブロック農業大学校同窓会長会議が本校を主会場に令和7年6月12日(木)から13日(金)にかけて開催されました。

会議は、東海近畿ブロック農業大学校校長会議と合同開催され、初日の全体会議では決算報告や事業計画等の協議の後、本校元校長の藤井潔名誉顧問による「農大の教育及び農大生に望むこと」と題した講演が行われました。

さらに、校長会議と同窓会長会議の分科会議がそれぞれ開催され、同窓会長会議においては同窓会の現状等について、活発な議論が交わされました。

2日目は、豊田市にて先進的な農業に取り組んでいる(株)中甲の視察と、カクキュー八丁味噌の見学が行われました。



藤井潔名誉顧問

令和7年度役員名簿

Table listing the names and titles of the board members for the 7th fiscal year, including the President, Vice President, and various committee members.

同窓会名簿新規発行の廃止について

個人情報保護のため、同窓会名簿の新規発行を廃止します。会員様の情報の提供については、同窓会員ご本人であることや使用目的が適正であること等を確認した後、提供させていただきます。

- ①名簿が必要な方は、同窓会事務局に御連絡ください。
②同窓会事務局から「同窓会名簿利用申請願」を送付します。
③必要事項を記入の上、本人の確認ができる書類(免許証の写真等)を添付の上、郵送又はメールで申込み
④本人同意が得られた後、データを提供します。

なお、平成26年11月に発行した同窓会名簿の購入を希望される方は、同窓会事務局へお問い合わせください。

お問い合わせ先 同窓会事務局
0564-5111602

農業大学の近況

(人数は入学時点)

1 概況

令和7年度の教育部農学科の学生数は1,2年生あわせて168名で、そのうち女子は49名で29%となっています。

専攻別学生数は表1に示したとおりで、果樹・野菜・酪農専攻の学生数が多い傾向にあります。また、酪農、養豚・養鶏専攻は女子学生の割合が高く、女子の人気の高さがうかがえます。

一方、企画研修部では、Uターンや他分野からの新規就職支援、離職者等への農業に関する再就職訓練など長期間の就業支援研修を3つ開講しています。令和7年度は3研修で計61名が受講しています。また、福祉事業所職員が施設の栽培ほ場を運

表1 令和7年度農学科の専攻別学生数 (単位:人)

専攻名	1年生	2年生	計
鉢物・緑花木	7 (0)	6 (0)	13 (0)
切花	11 (3)	8 (2)	19 (5)
作物	6 (1)	8 (2)	14 (3)
果樹	15 (4)	13 (3)	28 (7)
露地野菜	15 (3)	13 (4)	28 (7)
施設野菜	13 (2)	15 (2)	28 (4)
酪農	17 (12)	9 (4)	26 (16)
養豚・養鶏	8 (3)	4 (4)	12 (7)
計	92 (28)	76 (21)	168 (49)

() 内は女子の人数で内数

表2 農学科の入学生数の推移

入学年度	入学者数	女子学生数		農家子弟数	
		人数	割合	人数	割合
H31	97	24	25%	32	33%
R2	104	28	27%	29	28%
R3	83	24	29%	27	33%
R4	76	25	33%	18	24%
R5	91	29	32%	25	27%
R6	79	24	30%	19	24%
R7	92	28	30%	19	21%

表3 農学科卒業生の進路状況

卒業年度	R2	R3	R4	R5	R6
後継者	12	10	8	3	6
農業法人	17	23	24	18	22
一時的就職後就農	10	13	8	6	10
就職計	39	46	40	27	38
進学	34	44	30	38	41
その他	4	3	2	2	3
計	4	7	0	1	4
計	8	1	2	0	0
計	89	101	74	68	86

2 農学科の入学状況

本校では、意欲の高い学生を確保するため、オープンキャンパスや緑の学園研修、県内各JA広報誌への学生募集の掲載などを実施しています。そうした取組の結果、本年度は、定数100名に対し106名の志願者があり、試験の結果、92名が入学しました。

うち、専業及び兼業農家子弟の学生は19名で入学者全体の21%、

非農家出身者は79%となっています。また、女子学生は28名(30%)で、県内農業高校出身者は56名(61%)でした。(表2参照)

3 農学科卒業生の進路状況

本校では、1年生のうちから進路セミナー等を実施して、進路の方向付けや就職活動の支援を行っています。令和6年度農学科卒業生の進路状況は表3のとおりです。86名の卒業生のうち、親元や農業法人など就職した者は、予定者を含めると38名で全体の44%にあたります。また、就職した卒業生の多くは、農業関連企業や団体に就職しました。

本校では職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施して、多くの農業法人等から求人をしていただき、学生の就農等を支援しています。同窓生の皆様からの求人をお持ちしております。

農学科各グループの近況

【鉢物・緑花木専攻】

「花きグループ」
ガラス温室や遮光ハウスなど約1600㎡の施設と300㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等200種類以上の品目を栽培しています。在籍者13名(1年生7名、2年生6名)のうち専業農家出身者は1名で、普通科高校卒業生も多くいます。専攻実習では、1年生の7月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、

緑花木」の4つの部門に分かれ、学生からの「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。



本年度は、「鉢花の鉢上げ回数と品質及び労働時間の削減効果」などをプロジェクトとして取り組んでいます。学生それぞれのアイデアを生かし、品質向上や低コスト化、省力化など農業経営の改善に繋がるよう取り組んでいます。

【切花専攻】

約1500㎡の温室と200㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ベニバナ、ガーベラなど、10種類以上の植物を栽培しています。在籍者17名(1年生9名、2年生8名)のうち、専業農家の子弟は5名います。1年生は、8月までに全ての品目の基礎的



な栽培管理を学び、9月中旬から10月中旬までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞しくなっています。派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷しています。また、毎週水曜日に実施する実習販売では、切花加工演習で習得した技術を生かして自分たちで作った多品目を組み合わせた花束も販売しており、お客さんの反応を楽しみながら、意欲的に取り組んでいます。

【野菜グループ】

1年生15名、2年生13名、計28名が在籍し、露地野菜と促成イチゴの技能習得に取り組んでいます。15haのほ場で、冬はキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、夏はスイートコーン、スイカ、ナスなど、県内の主要40品目の勉強をしています。また、イチゴの高設栽培において、令和2年度から環境測定装置の「あぐりログ」を設置・活用するとともに、暖房機の更新に合わせて、炭酸ガス発



生機を導入し、本格的な環境制御技術に挑戦しています。

近年の異常気象に対応するため、プラソイラーによる深耕を行い、水はけを改善しています。また、作柄安定のため土壌診断に基づく施肥量の適正化と、夏期の遊休期間を利用して緑肥を栽培しています。

〔施設野菜専攻〕

1年生14名、2年生15名の計29名が在籍し、約30aの温室で、主にトマト、ナス、キュウリ、メロンを栽培しています。本専攻では、養液土耕栽培の他に産地で普及しているココバグ栽培や袋培地栽培などにも取り組んでいます。

令和2年度に統合環境制御システム「プロファームコントロール」を導入したICT温室を建設しました。令和3年度作から大玉トマト栽培において10a当たり年間収量40tを目指した学生のプロジェクト学習を行っています。

また、令和5年度からICT温室の一部で、給液管理に日射比例制御を取り入れ、さらなる栽培の安定化を図っています。さらにナス栽培では炭酸ガスの局所施用システムを導入し、収量や品質の向上に挑戦しています。



〔作物・果樹グループ〕



1年生6名、2年生8名の計14名の学生で、1haの大区画水田をはじめ大小9区画、計3.3haの水田で、大型機械を利用して水稲、小麦、大豆の栽培に取り組んでいます。

1年生は水稲栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進め、2年生からプロジェクト学習に取り組む、卒論としてまとめられます。

そのため、2年生になると各学生にほ場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制としています。

化学肥料及び化学農薬を使用しない栽培方法や緑肥を用いた栽培方法の検討などをテーマとして取り組み、高生産性及び付加価値の高い技術に取り組んでいます。

また、近年は農機メーカーの協力も得て営農支援システムの活用などスマート農業の学習にも力を入れています。

〔果樹専攻〕

1年生15名と2年生13名の計

28名の学生で、2.5haの露地ほ場においてブドウ、ナシ、モモ、カキなど県内主要品目を栽培しています。また、イチジク、ミカン、ブドウのハウス栽培も行われており、県内の果樹営農類型の多くを学生は学ぶことができます。

多様な樹種と栽培方式のため、開花期から収穫前の7月までは摘果や袋掛け、ホルモン処理など管理作業に学生たちは多忙な毎日を送ります。

6月に入ると順次収穫が始まりますが、いずれの果実も実習販売では人気商品で、買い求めるお客様の列が絶えません。

学生は、入学当初は数多くの樹種の基本的な技術を学びますが、プロジェクト学習ではテーマを決めて、より専門的な知識・技術を習得します。本年度のテーマとして、「遮熱シート被覆によるブドウの日焼け対策」、「モモにおける植付時の客土の効果検証」などに取り組んでいます。



〔畜産グループ〕

〔酪農専攻〕

乳用牛約50頭（経産牛25頭、育成牛25頭）、肉用牛23頭（繁殖3頭、肥育10頭、育成10頭）、計70頭前後の牛を1年生17名と2年生9名の学生が飼養管理しています。また、約3haの圃場でトウモロコシや牧草など自給飼料生産も行っています。

学生の多くは非農家出身で、本校に入学して初めて牛に触れることもあり、1年生も、2年生や専攻の先生の助言を受けながら飼養管理技術を身につけていき、夏休み前にはしっかりと管理できるようなっていきます。

生き物の世話、特に搾乳作業は、年間を通して休みなく毎日の当番制で回していき、実習時間数は全専攻の中でも突出しています。その中でも学生たちは、自分たちで名付けた牛たちを名前で呼びかけながら愛情いっぱい飼養し、どの農場よりも人懐っこい牛群が形成されています。



フリーストール牛舎で、牛がより過ごしやすい環境を整えており、

今後もアニマルウェルフェアを意識した飼養管理を実践し、生産への波及効果を期待しています。

〔養豚・養鶏専攻〕

養豚コースでは1年生3名、2年生1名の計4名が在籍し、豚の交配から分娩、育成、肥育、出荷に至るまでの一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。繁殖は全て人工授精で行い、学生はしっかりと母豚を観察し、慎重に作業を進めています。また、出荷した豚の枝肉を食肉市場で調査したり、豚肉の食味試験を行い、おいしい豚肉づくりに役立てるとともに、畜産加工実習を行い、ハムやソーセージの製造実習も行っています。



養鶏コースでは1年生5名、2年生3名の計8名が在籍し、ウインドウレス鶏舎、開放鶏舎で、白玉・赤玉鶏、卵用名古屋コーチン等を合計約2400羽飼育し、採卵鶏の飼養管理技術について学んでいます。新たに入ってきた1年生は、5月にはひなが1200羽入すうしたこともあり、ひなの飼養管理技術について学ぶことができました。また、毎週水曜日に行われる実習販売で、学生がお客様に直接、鶏卵を販売することにより、接客や直販での売り方を学んでいます。

ヤンマー学生 懸賞作文で 銅賞を受賞しました

第35回ヤンマー学生懸賞論文・作文(作文の部)で庄司充希さん(施設野菜専攻)と初祖絵里香さん(養豚養鶏専攻)が銅賞を受賞しました。

庄司さんは「農業のすべてを知り、後世につなげるために」と題して、農業にときめきを感じる人を増やすことによって、就農をサポートするという目標を、祖母のミニトマト栽培を手伝った体験を通して述べました。また、初祖さんは「私の理想の養豚経営」と題して、食品廃棄物等を活用することによって飼料自給率100%の持続可能な養豚を営む夢について述べました。両方の作品からは「効率よりも人類の健康で豊かな暮らし」を目指す強い思いが伝わってきました。普段は語られない農業に対する学生の思いを発表する場として、これからも積極的に応募して欲しいです。

本校学生が 全国専門学校卓球選手 権大会に出場

露地野菜専攻の星井暁名さん

が、県内で行われた予選会を勝ち抜き、令和6年12月3日(火)〜4日(水)に開催された第40回記念全国専門学校卓球選手権大会の女子シングル及び女子団体に出場しました。

結果は惜しくも予選敗退でしたが、全国大会の大舞台で本校学生が躍動する姿は、とても輝いて見えました。



農大祭

農大祭2024を開催

令和6年12月7日(土) 午前9時から午後1時まで、「90周年だよ! 農大祭!! 全員集合!!!」をテーマに「農大祭2024」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、風もなく穏やかな日となりました。来場者は、昨年の2,500名を超え、約2,900名の方々に来場いただきました。

学生が丹精込めて育てた農畜産物の直売ブースは毎年大変好評です。体育館では切花専攻のキクやストック、鉢物・緑花木専攻のシンビジウムやポインセチア等で埋め尽くされ、たくさんの方々

が目的の花を買い求めていました。テントブースでは、ハクサイやキャベツ、トマト、ナスなどの野菜や、ナシ、ブドウといった果物を始め、養豚・養鶏専攻の名古屋コーチンの鶏卵、作物専攻の米等を買求める姿が見られ、両手に抱えきれないほどの多くの農産物を持った来場者であふれていました。

食品バザーでは、農大で穫れ



会場風景



専攻ブース

た農作物を使用した、五平餅や豚汁、牛串、大学いも、プリンなどたくさん美味しいメニューが並び、来場者のお腹を満たしていました。

今回も、来場者の皆さんの笑顔があふれる農大祭となりました。また、すべてやり終えた学生たちの充実した表情がとても印象的でした。

来賓、協賛・出展団体、保護者、来場者等、皆様の多大な御協力により大盛況のうちに終わることが出来ました。ありがとうございました。

農大祭2025について

今年も12月6日(土)に「ぶちまけろ 自分の心に 秘めたモノ」をテーマに農大祭を開催します。

農大祭当日、懐かしの母校を訪れてみませんか

皆さんは、卒業後、農大を訪れたことがありますか?

久々に行ってみたいけれど、一人ではなかなか...という方もおいでかと思えます。

そんな方は、一般の来場者でにぎわう農大祭なら、気楽に来られるのでは?

キャンパスツアー※で校内を巡り、懐かしい思い出に浸ってみませんか? (※農大祭の催しと

して、一般向けに開催しています) もちろん、同級生、先輩後輩、恩師との来校も大歓迎です! キャンパスツアーの開催時間を始めとした農大祭の詳細は、順次、本校ウェブページ及びSNSに掲載していきますので、チェックをお願いします。

農大祭2025への協力について

農大祭実行委員会では、同窓会会員の皆様から協力金を募っております。

ぜひとも皆様の御協力をお願いいたします。

●協力金の金額
一口 1,000円
(一口以上でお願いします)

●振込先
金融機関 あいち三河農業協同組合 美合支店

口座名義人 農大祭実行委員会
会長 島岡 勝隆

口座番号 普通
0036083

●払込期限
令和7年11月13日(木)

※振込で御協力をいただく場合は、各金融機関の振込用紙を御利用いただくとともに、御氏名の前に「同窓会 ドウソウカイ」と御記入ください。

なお、振込手数料についても御負担くださるようお願いいたします。

同窓会創立90周年記念事業を開催しました



柴田会長挨拶

農業大学校同窓会創立90周年を記念し、令和6年11月16日(土)に記念事業を盛大に行い、同窓生や現・旧職員など約100人の方々が出席しました。

午後1時から記念式典が挙行され、柴田同窓会長の挨拶に続き、令和6年度あいちアグリアワード担い手育成部門を受賞された加藤廣行様に対して祝意を表すため記念品が贈呈されました。次に、90周年を記念して同窓会から記念品(学生寮舎室の学習椅子200脚及び正門横の案内看板の更新)の目録贈呈が行われました。

続いて、記念講演会が行われ、



鈴木宣弘氏による講演

「農は国の本なり 食と命を守る」という演題で、東京大学大学院特任教授の鈴木宣弘氏が1時間30分にわたって講演されました。講演では豊富な知識や経験から日本の食料自給の低さの原因や将来の見通しなどユーモアを交えながら楽しくお話しされ、あつという間に時間が過ぎてしまいました。最後は同窓会員へ向け多大なエールをいただき、盛んな拍手のうちに講演を終了しました。

記念講演会終了後は和耕寮食堂に移動して懇親会が開催されました。懐かしい同窓生との旧交を温め、大盛況のうちに会は終了しました。



加藤廣行様記念品贈呈

東海近畿地区農業大学校 学生スポーツ大会 岐阜大会

今年度の東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会は、5月29日(木)・30日(金)に岐阜県の岐阜メモリアルセンターで開催されました。

この大会は、スポーツを通じて連帯意識と学生の健全な活動を助長し、たくましい次代の農業を背負う担い手を育成することを目的とした、長い歴史をもつ大会です。

競技種目は軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、テニスの6種目で、本校は全種目に参加しました。

競技では互いに相手を尊重し、



集合写真



バドミントン

フェアプレイ精神で臨むなど礼儀正しい試合を行うことができました。

成績は、団体の部では軟式野球、バドミントン、テニスが優勝し、バレーボール、バスケットボール、卓球が準優勝でした。個人の部ではバドミントン女子ダブルス、女子ダブルス、卓球女子ダブルスが優勝、バドミントン男子シングル、卓球女子シングルが準優勝、テニス男子シングルが第3位でした。

本校の学生たちは、この大会を目標に、昨年度よりも良い成績を残すため練習に打ち込んできましたが、日頃のクラブ活動の成果を遺憾なく発揮し、団体の部では全種目で優勝または準優勝となるなど、全ての種目で好成績を残すことができました。

また、学生同士が交流を深め、会場各所でも交流の輪が広がっていました。次年度は大阪府で開催されます。この大会での新たな出会いと経験を活かして、愛知農大生として、さらに成長していくことを期待しています。



テニス



野球

企画研修部の各種研修の紹介

企画研修部では、農業者の経営改善に関する知識・技術・技能の習得を目的とした研修や、本県の農業に対する県民の理解と関心を深めるための研修を実施しています。令和7年度の研修の総定員数は約2,500名です。

① 農業者生涯教育研修

農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。

○担い手の確保を目的とした3つの長期研修

8～10か月間に及ぶ長期研修として、①農業所得250万円以上を目標としたUターン就職者や農外からの新規参入者が対象の「ニューファーマーズ研修」、②農業以外に従事されていた方が農業を始めるための基礎的な技術・知識を修得する「農業者育成支援研修」、③職者の公共職業訓練の位置づけで三河高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として実施している「農業技術研修」があります。

○農業者の経営発展段階に応じた研修

知識や新技術等をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」等を実施しています。「生産高度化研修」では、部門別に企画する11講座に加え、今年度は新たに有機農業に関する公開講座を9月から開催します。

また、経営のノウハウを体系的に学ぶ「あいち農業経営塾」や、女性農業者の活躍促進のための「女性農業者支援研修」等を開講し、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた農業者の育成を図っています。



農業者育成支援研修

② 農業機械研修

農業機械研修では、農耕車限定の大型特殊自動車・けん引免許が取得できる「大特免許研

修」、「けん引免許研修」のほか、労働安全衛生法に基づく講習又は教育修了証が受領できる「フォークリフト研修」、「小型車両系建設機械研修」、「刈払機研修」等を実施しています。

免許や資格の取得につながる研修は人気が高く、抽選により受講者を決定するものもあります。就農を予定している学生には、積極的な受講を呼びかけています。



農業機械研修 (大特免許)

③ 農業理解研修

県民の方々が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得ることで、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。

「県民公開講座」では、家庭で栽培するカキやウメ等の身近な果樹の剪定方法について実演を交えて学びます。

「農業体験学習」は、農業に

親しみ理解を深めてもらうため、園児や児童等を対象に農大の生産施設の見学などを実施しています。

また、農福連携を推進するため、福祉事業所職員を対象に、農産物の栽培技術や知識の習得を目的とした「農福連携支援研修」を実施しています。



農業体験学習

就農相談窓口のご案内

就農企画科内に設置された農起業支援ステーションは就農相談の一次相談窓口として新しく農業を始めた方を支援しています。就農を考えている方は農業大学のWebページから、就農説明会にお申し込みください。



就農説明会

令和7年度の研修一覧 (企画研修部)

	研修名	回数	定員
農業者生涯教育	ニューファーマーズ	—	20
	農業者育成支援	—	15
	農業技術	—	30
	経営管理	4	180
	生産高度化	11	1,060
	農産物利活用	1	20
	GAP	2	50
	女性農業者支援	4	300
	あいち農業経営塾	—	20
農業機械	大特免許	9	145
	けん引免許	2	36
	トラクター作業	2	24
	フォークリフト	2	56
	小型車両系建設機械	2	52
	刈払機	1	24
	トラクター利用研修	2	20
農業理解	県民公開講座	1	50
	農業体験学習	—	400
	農福連携支援	—	15
	合計	—	2,517

農学科の令和6年度卒業論文発表会を開催しました

農学科の卒業論文発表会を令和6年12月17日(火)に開催しました。

今回は大講義室に2年生、1年生を全員集めての開催となりました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでいます。学生自らが農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組み中で感じた疑問点や改善点を課題とし、様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文発表会はその成果を専攻毎に選ばされた2年生9名(昨年度に引き続き養豚・養鶏専攻から2名)が10分間の発表を行うもので、自分の取り組んできたテーマを全学生の前で発表できる絶好の機会です。

発表会当日は、いずれの発表者も専攻の代表であるという自覚と責任を持って、素晴らしい発表を行いました。

各賞の受賞者は以下のとおりです。

最優秀賞・松井幸生(養豚・養鶏専攻)「黒麴給与が肥育豚

の発育と肉質に与える影響」

優秀賞・松本侑馬(酪農専攻)「敷料が乳牛行動と牛床の快適性に及ぼす影響」

優秀賞・石川稜(切花専攻)「露地小ギクの高品質化」

審査委員長である恒川校長は講評の中で「現場での課題への対策でテーマの設定ができており、技術の実効性や妥当性などの実証、結果の取りまとめ、考察も全般的に良くできていました。」と本人や専攻の関係者を労いました。

最優秀賞の松井君は「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」で本校代表として発表しました。



受賞者と審査員

オーストラリアへの海外派遣研修を実施しました

令和7年1月27日(月)から2月2日(日)まで海外派遣研修が実施されました。学生達はオーストラリアで農業事情を学び、言葉の壁を乗り越えながら、ホストファミリーとの絆を深めることができました。往路途中にベトナムも訪れ、様々な国の文化も学ぶことができました。

参加した2年生85名は、異なる文化や生活習慣に戸惑いつつも、日本では得られない文化や体験を享受できたことは一生の思い出になったと思います。卒業後もこの経験を活かしてくれることを期待しています。

ベトナムで歴史を学ぶ

ホーチミンでは現地ガイドの案内で統一会堂・中央郵便局を視察し、ベトナムの歴史について学びました。翌日に旧正月を迎える市内は、黄色の花や金色・赤色などの



リボンで煌びやかに装飾が施され、アオザイ姿の人々も多く見られました。夕食はベトナム料理で、独特の味付けに苦戦する学生の姿も見られました。夕食後、シドニーに向けて出発しました。

ホストファミリーと対面

シドニー国際空港に9時50分に到着。ファミリーステイのため2台のバスでポーラル競馬場事務所に向かいました。



酒井教育部長が英語で挨拶した後、ホストファミリーとの対面です。皆ともフレンドリーで、お子さん連れで迎えてくれたファミリーもありました。学生は大きな声で挨拶、ボディランゲージでやり取りするなど一生懸命にコミュニケーションを取り、各ファミリーステイ先に出発していききました。

ポーラルでファミリーステイ

ファミリーステイでは20のステイ先に分かれ、農作物の収穫や動物への餌やりのほか、食事やお菓子作り、周辺農家等の見学、カンガルー等の野生動物を観察するなど様々な経験をすることができ



ました。

ホストファミリーからは、学生が予め作業できる服装で準備ができていたり、ことや、飼養・栽培管理の手際の良さ、作業で汗をかいたり汚れることを厭わな

い姿を称賛していました。楽しい時間はあっという間でしたが、お世話になったホストファミリーと涙や笑顔でお別れのハグをする姿が印象的でした。学生からは「最高の思い出」「また訪れたい」という言葉も聞かれました。ファミリーステイを終えた学生は、バスでシドニー市内へ移動しました。

シドニーを満喫

シドニーでは現地ガイドの案内でタロンガ動物園とマンリービーチを訪れるバスツアーやブルーマウンテンズを訪れるバスツアーに参加したり、予めグループで決めたプランでセントメアリーズ大聖堂やオペラハウスなど、思い思いの場所を訪れたりするなど、シドニーを満喫しました。



令和6年度卒業式

教育部農学科の令和6年度卒業式が3月7日(金)に挙行され、86名が本校を巣立っていき

ました。当日は卒業の門出を祝うかのような好天に恵まれました。厳



卒業式の様子



な思い出を胸に卒業式に臨んでいました。

式典では、卒業生全員が順に呼名され、恒川校長から卒業生総代の長谷川実穂さんに、卒業証書が授与されました。その後、成績優秀者や実習等に精励した者に対して、県知事賞や大学校長賞等の表彰が行われたあと、校長式辞に続き柴田同窓会長から御祝辞をいただきました。最後に在校生による送辞と、卒業生代表、作物専攻の吉田勝哉さんが答辞を述べ、閉式となりました。

卒業式終了後は、学生会が主催する卒業パーティーが開催され、軽音楽部による演奏やビンゴゲームなどを楽しみながら、思い出を語り合う姿が見られました。

卒業生は、就農、就職、進学とそれぞれの道で羽ばたいてきますが、農大での学びを活かし、新たな道を歩んで行って欲しいと思います。

表彰状受賞者

優秀賞

【愛知県知事賞】

長谷川実穂 教育部農学科 養豚・養鶏専攻

【大学校長賞】

吉田明実果 教育部農学科 鉢物・緑花木専攻
永田 大和 教育部農学科

尾崎 瞳 果樹専攻 教育部農学科

野田実乃里 露地野菜専攻 教育部農学科 露地野菜専攻

奨励賞

【大学校長賞】

山口 颯一 教育部農学科 鉢物・緑花木専攻

石川 稜 教育部農学科 切花専攻

左右田燿子 教育部農学科 作物専攻

小笠原泰生 教育部農学科 果樹専攻

鈴木 爽太 教育部農学科 露地野菜専攻

中川 弘貴 教育部農学科 施設野菜専攻

松本 侑馬 教育部農学科 酪農専攻

森 響 教育部農学科 養豚・養鶏専攻

特別賞

【大学校長賞】

首藤 理杏 教育部農学科 果樹専攻

佐藤明日美 教育部農学科 施設野菜専攻

中村花和子 教育部農学科 酪農専攻

全国農業大学校協議会長賞

吉田 勝哉 教育部農学科 作物専攻

農業大学校同窓会全国連盟会長賞

加古 翔佳 教育部農学科 露地野菜専攻

農業大学校の職員

(令和七年七月一日現在) ○印は異動の職員

○校長 島岡 勝隆

○副校長 森本 孝

○管理課長 寺尾 桂子

○課長 河合 孝行

○主幹 伊藤 泰江

○主任 柴田サワ子

○主事 熊谷 早苗

○非常勤 今西 亜紀

○非常勤 近藤 美江

○非常勤 江崎恵利子

○非常勤 浅野 将宏

○非常勤 柳田 美紀

○非常勤 宮本 憲

○非常勤 大見有紀子

○非常勤 鈴木 修市

○非常勤 坂口 卓司

落合 幾美
佐野 達也
影山 舞子
黒野 大稀
鶴田 瑞穂

○非常勤 志知 昭宏

○非常勤 嶋本 千晶

○非常勤 中嶋 千晶

○非常勤 則竹 伸哉

○非常勤 小島 優作

○非常勤 金沢 輝芳

○非常勤 山本るみ子

○非常勤 中村 星太

○非常勤 鳥居 雅樹

○非常勤 豊島 浩一

○非常勤 田中 雄基

○非常勤 柳澤 淳二

○非常勤 井戸 咲良

○非常勤 森本 孝

○非常勤 玉越千賀子

○非常勤 西川 幸広
加藤 夕子
中坊 昌也

鬼頭 郁代
本庄 弘樹
高木 俊輔
水野 英之
横井 信之
梶田 靖
福井 敏幸
大谷 雅子
中村 彰
大澤 史季

令和6年度 会計決算報告

1 令和6年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備 考
2,321,349	1,615,892	705,457	自令和 6. 1. 1 至令和 6.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
会 費	1,360,000	1,360,000	0	農学科68名 (@20,000円)
雑収入	15	3,131	3,116	東近ブロック宿泊助成金 預金利息 6.2.18 6円 6.8.18 125円
繰越金	958,218	958,218	0	前年度より繰越
計	2,318,233	2,321,349	3,116	

支出の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	差引残額	備 考
全国連盟会費	65,770	54,770	11,000	会員割 20,000円 学生1名 500円×68名 振込手数料 770円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会活動費	21,100	0	21,100	
旅 費	90,000	77,102	12,898	・全国連盟同窓会会長会議・総会 ・東海近畿ブロック校長・同窓 会会長会議
事務用品費	40,000	560	39,440	事務用切手代
会報発行費	861,000	830,013	30,987	同窓会報第40号印刷・発送
会 議 費	120,000	103,737	16,263	役員会1回 6.1.12 理事会1回 6.2.2 開催費等 (旅費、昼食代、謝礼等)
賃 金	11,000	0	11,000	
記念品費	203,000	125,450	77,550	卒業生記念品 (サ-モボトル、図書カード)
表 彰 費	70,000	52,250	17,750	会員表彰記念品 (掛時計)
個人情報 業務委託費	155,000	154,770	230	会員データ年間管理料 154,000円 振込手数料 770円
交 際 費	10,000	0	10,000	慶弔電報代
繰 出 金	200,000	200,000	0	創立記念基金 200,000円
予 備 費	461,363	17,240	444,123	オープンキャンパス試食品費
計	2,318,233	1,615,892	702,341	

2 令和6年度 名簿作成基金会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備 考
2,062,190	2,062,190	0	自令和 6. 1. 1 至令和 6.12.31

(廃止)

収入の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
繰入金	0	0	0	一般会計から
預金利息	0	9	9	6.2.18 9円
名簿収入	0	0	0	
繰越金	2,062,181	2,062,181	0	前年度より繰越
計	2,062,181	2,062,190	9	

支出の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	差引残額	備 考
繰出金	2,062,181	2,062,190	△ 9	6.3.15
予備費	0	0	0	
計	2,062,181	2,062,190	△ 9	

3 令和6年度 創立記念基金会計収支決算

(1) 普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備 考
5,542,428	739,663	4,802,765	自令和 6. 1. 1 至令和 6.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
繰入金	2,262,181	2,262,190	9	一般会計、名簿作 成基金会計から
預金利息	20	361	341	6.2.18 14円 6.8.18 347円
繰越金	3,279,877	3,279,877	0	前年度より繰越
計	5,542,078	5,542,428	350	

支出の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	差引残額	備 考
記念事業費	2,500,000	739,663	1,760,337	
予備費	3,042,078	0	3,042,078	
計	5,542,078	739,663	4,802,415	

(2) 定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備 考
500,729	0	500,729	自令和 6. 1. 1 至令和 6.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
預金利息	50	9	△ 41	6.2.5 9円
繰越金	500,720	500,720	0	前年度より繰越
計	500,770	500,729	△ 41	

支出の部

(単位 円)

費 目	予算額	決算額	差引残額	備 考
予備費	500,770	0	500,770	
計	500,770	0	500,770	

令和7年度 会計予算

1 令和7年度 一般会計収支予算

収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
会 費	1,740,000	1,360,000	380,000	農学科 87名
雑 収 入	131	15	116	預金利息(2月・8月)
繰 越 金	705,457	958,218	△ 252,761	前年度より繰越
計	2,445,588	2,318,233	127,355	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
全国連盟会費	59,770	65,770	△ 6,000	会員割 20,000円 学生1名 500円×78名 振込手数料 770円
支部活動費	10,000	10,000	0	5,000円×2支部
技術部会活動費	21,100	21,100	0	10,000円×2支部 振込手数料 550円×2
旅 費	90,000	90,000	0	東海近畿ブロック 会議、全国連盟総 会の出席旅費
事務用品費	40,000	40,000	0	文具等
会報発行費	831,000	861,000	△ 30,000	同窓会報発行・ 発送
会 議 費	120,000	120,000	0	役員会、理事会 開催費
賃 金	11,000	11,000	0	
記念品費	191,400	203,000	△ 11,600	卒業生記念品代 87名
表 彰 費	70,000	70,000	0	同窓会員の表彰 記念品代
個人情報 業務委託費	155,000	155,000	0	会員データ年間管理料 154,000円 振込手数料 770円
交 際 費	10,000	10,000	0	
繰 出 金	200,000	200,000	0	創立記念基金 200,000円
予 備 費	636,318	461,363	174,955	
計	2,445,588	2,318,233	127,355	

2 令和7年度 創立記念基金会計収支予算

(1) 普通預金

収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	200,000	2,262,181	△ 2,062,181	一般会計から繰入
預金利息	361	20	341	
繰 越 金	4,802,765	3,279,877	1,522,888	前年度より繰越
計	5,003,126	5,542,078	△ 538,952	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
記念事業費	1,760,337	2,500,000	△ 739,663	農大寄贈品(学習用 椅子、農大案内看板)
繰 出 金	2,742,789	0	2,742,789	定期預金へ繰出
予 備 費	500,000	3,042,078	△ 2,542,078	
計	5,003,126	5,542,078	△ 538,952	

(2) 定期預金

収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	2,742,789	0	2,742,789	普通預金から繰入
預金利息	50	50	0	
繰 越 金	500,729	500,720	9	前年度より繰越
計	3,243,568	500,770	2,742,798	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	3,243,568	500,770	2,742,798	
計	3,243,568	500,770	2,742,798	

事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、その状況を事務局までお知らせください。

また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。

会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めていただいていた方がお見えになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所氏名を記入して農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局

同窓会長 野田 留美

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2

電話 (0564) 51-1602 F A X (0564) 51-4831

会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社廣済堂ネクスト(会誌の發送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報は個人情報保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して、左記目的の範囲でのみ利用いたします。

株式会社廣済堂ネクストの個人情報取扱について

- いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。
- 学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の發送
- 同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合
- (同窓会会則に準じます)

- ご提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。
- 個人情報は原則として本人にかきり、開示、訂正、削除を求めることができます。
- ご提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。
- 個人情報は原則として本人にかきり、開示、訂正、削除を求めることができます。